

1 農 林 試 第 1 8 1 7 号
令 和 2 年 1 月 2 2 日

各関係機関団体の長
各病虫害防除員 } 殿

福岡県農林業総合試験場長
(福岡県病虫害防除所)

令和元年度病虫害発生予察技術情報第7号について

このことについて、病虫害発生予察技術情報第7号（キウイフルーツかいよう病の冬春季防除）を
発表したもので送付します。

技術情報第7号

1 対象作物名：キウイフルーツ

2 病虫害名：キウイフルーツかいよう病 Psa 3 系統
(*Pseudomonas syringae* pv. *actinidiae* biovar3)

3 これまでの発生状況

2019 年は、冬季の気温が高く、4～5 月の風雨も少なかったことで、ヘイワード等のキウイフル
ーツかいよう病に比較的強い品種での発病は前年より少なかった（図1、2）。一方、レインボー
レッド等のキウイフルーツかいよう病に弱い品種では、前年並の発生となった（データ略）。

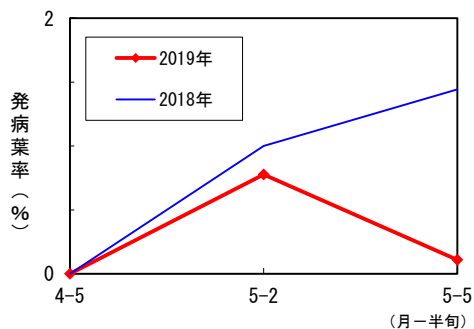


図1 発病葉率の推移

※既発生ヘイワード園地（3園地×5樹）で調査

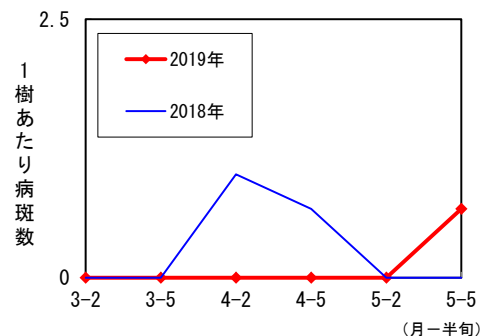


図2 1樹あたり枝病斑数の推移

4 防除上注意すべき事項

2019年春季の葉での発病が少なかったこと、2020年冬季の気温が高く推移しており向こう1ヶ月も高い予報であることから、春季の枝での発病は平年より少ないと予想される。しかし、急な冷え込みによる凍害の発生等、今後の気象条件によっては発生の増加が懸念されるため、以下の対策を徹底し、感染抑制に努める。

(1) 薬剤の定期的散布

冬春季は、銅剤を中心に定期的な予防散布を行う。特に、傷口からの感染を抑制するため、剪定後や凍害による樹体の損傷が懸念される場合は防除を行う。

(2) ほ場巡回による早期発見・報告

2月上旬からほ場の巡回頻度を高め、樹液の漏出等(写真1、2)の病徴の早期発見に努める。また、発生が疑われる場合は、速やかに関係機関へ連絡し、対応を協議する。



写真1 凍害による亀裂から生じた赤褐色の樹液の流出痕



写真2 枝分岐部からの樹液の漏出

(3) 衛生管理

器具や人への病原菌の付着による伝染を防ぐため、次の対策を徹底する。

- ① ハサミやノコギリ等の器具は使い回しせず、園地ごとに決められたものを消毒して使用する。
- ② 園地に入る前に手と靴（特に靴底）を消毒する。
- ③ かごやキャリーに植物残渣を混入させない。
- ④ 園地を出る前に、すべての服、帽子、靴についての植物残渣、靴底の土を除く。
- ⑤ 園地を出たあとは、手、服、帽子、靴（特に靴底）を消毒する。
- ⑥ 発生園で作業した場合は、そのままの服装で他の園地へは行かない。

※ 消毒は消毒用アルコール（70％）や次亜塩素酸ナトリウム水溶液（ハイター等）で行う。

○病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。
「福岡県病害虫防除所ホームページ」 <http://www.jppn.ne.jp/fukuoka/>

